

慈眼

第12号

発行所
藤津郡塩田町大字
五町田甲1307 学成院内
TEL 09546-6-2285
FAX 09546-6-2771

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
小寺大誠
印刷所 中野印刷所

佐賀県宗務所 新所長

塩田町 学成院住職

小寺大誠



《日蓮宗佐賀県宗務所、新所長紹介》

去る九月二十日に遷化された、小城郡妙暹寺住職、辻智彰前宗務所長の後任として藤津郡塩田町学成院住職小寺大誠上人が選挙によって、推挙されました。ここで小寺大誠新所長のご紹介を申し上げます。

昭和十六年十一月三日生れ、現在満五十七歳。昭和三十九年三月、立正大学仏教学部宗学科を卒業、昭和三十九年第二期信行道場を終了、昭和五十五年二月十日、日蓮宗大荒行堂第参行成満。昭和四十一年六月十八日、学成院住職となり、現在に至っております。新所長就任に至るまでの間には、様々な役職を歴任されました。昭和四

十六年六月一日、佐賀県護法運動事務局に任命され、昭和五十一年四月一日、佐賀県青年会々長に就任、昭和五十一年六月、宗務所協議員に就任四期務め、昭和六十二年四月十日、佐賀県社教会々長に就任、三期務められ、佐賀県宗政に多大な貢献をされてこられました。

また、法華経精神を弘むべく保育園をはじめ社会福祉事業に着手されました。

昭和四十四年四月一日、私立たちばな保育園を設立、園長に就任。昭和四十八年四月一日、公認を受け社会福祉法人たちばな保育園々長に就任。就任後十年間園長を務められました。昭和五十八年四月一日、社会福祉法人たちばな学園（知的障害者更正施設）を設立し、園長に就任されました。平成八年四月一日、佐賀県愛護協会副会長に就任。平成十年四月一日、社会福祉法人たちばな学園々長を退任し、理事長に就任し現在に至っております。

来る平成十四年には、立教開宗七五〇年という宗門において大事な年を迎えるにあたり、小寺大誠新宗務所長は、「宗祖」に返り「立正精神」をもって、この慶事に取り組んで参りたいと語られています。

遷化

日蓮宗佐賀県宗務所前宗務所長

小城郡 妙暹寺住職 辻 智彰



去る九月二十日、前宗務所長 辻 智彰上人が志中ばにして、病の為に遷化なされました。世寿六十六歳でした。九月二十一日、午後一時より密葬が営まれ、十月二十四日、午前十一時より本山松尾山光勝寺貫首田中日学猊下導師の下、本葬が執り行われました。

上人は、宗務所長就任の前には長い間、佐賀県護法担当事務長を務められ、佐賀県の宗政に大いなる貢献と実績を残されました。又その他、昭和四十六年六月五日、日蓮宗新聞通信員に任命、昭和四十九年四月、佐賀県青年会々長に就任、昭和五十一年五月、宗務所協議員に就任、平成七年五月、布教師会々長に就任、平成七年六月、全国布教師会連合会常任理事に就任。さらには、昭和五十年七月、佐賀県雅楽部初代楽長に就任するなど宗門の重要な役職を歴任されました。

上人の宗門に対しての絶大なる貢献を称えつつ、上人の増円妙道を心よりお祈り申し上げます。

あまのつむぎ

(かいつぶり)

最近また理解ができない宗教団体が様々な問題を起こしている。教祖を絶対的な存在とし、世間の常識が通じない「定説」とか「天の声」など教祖だけが啓示を受けて指示をし、それを信じて思い込み行動をする。その結果として社会の人々といろいろな争いや軋轢を生じさせてマスコミの恰好の材料となっている。

信仰は麻薬と言われることがあるが、良しも悪しきも信じ込んでしまう事、疑う事もなく盲目的に信じてしまう「盲信」である。

お釈迦様は盲信を戒め自らの心で考える事が必要といわれています、頭を取っていきません。



立教開宗七百五十年
慶讃シンボルマーク

【特集】《日蓮大聖人のご生涯》

前号より引き続き日蓮大聖人の
ご生涯をたどって参ります。

《前号まで》

一二二二（貞応元）年二月十六日、現在の千葉県小湊にお生まれになった日蓮大聖人は、十二歳の五月・清澄寺に入られました。「日本一の智者と為したまえ」との誓いをたてられ、道善房のもとで十六歳で出家されました。

お釈迦様のご本意を知り、一切衆生の救済を自らに課した大聖人は、探求を続けられ、五年の間に清澄において学びうるものは悉く学び終えられたのでした。

《遊学・鎌倉へ》

清澄寺は房州地方では屈指の大寺であったものの、向学心に燃える日蓮大聖人にとっては到底満足しうるところではありませんでした。当時の政治・文化の中心地から離れた房州清澄では、人材や書籍などあらゆる面において学問研究の充実を期することは不可能に近く、更なる修学のため諸国諸山遊学へと旅立たれたのです。

一二三八（暦仁元）年より北条執権政治の中心地・鎌倉へと遊学されました。念仏・禅を中心とした信仰仏教が生き生きと鼓動する鎌倉の地にとどまり、経論を紐解き、師を尋ね、渴者の如く法を求めて学習を深めて行かれたのでした。四年間にわたる鎌倉遊学を終えた一二四二年、「安房国清澄山住人蓮長撰」と署名



《遊学》
山遊学
清澄寺へ提
出された報告
論文のよう
な性格のも
ので、日蓮
大聖人の最
初の著述で

あるとともに「蓮長」の名で書かれた唯一の著書であります。（幼名の善日磨より、出家に伴い十六歳の時より是聖房蓮長と改められる）

《遊学・京畿へ》

二十一歳になられた大聖人は「お釈迦様のご本意を知る」という大志を抱き、伝統的文化と仏教の中心である京畿を目指して遊学の途につかれました。比叡山・園城寺・高野山等諸宗諸山を回り、清澄や鎌倉では学び得なかつた仏教の奥義を修学されたのでした。中でも比叡山はもつとも充実した勉学の地で、横川を拠点に比叡山での修学に勤められました。「お釈迦様のご本意を

知る」それは単なる知識の習得ではなく、一切衆生を導き、そして救済する無上の教えに生きることの意味していた。そしてついに最勝の法を覚知されたのでした。それは純粹な法華経信仰の世界に生きること、法華経信仰に「お釈迦様のご本意」を確信されたのでした。

お釈迦様の真実を覚知された日蓮大聖人の目には、念仏・禅・真言・律等の各宗が充満した当時の社会は「一同に謗法」と映り、後に国を諫め、諸宗批判へと進まれたのもこのような現状を憂えてのことでした。

自然災害に加えて、社会・政治の変動による価値観の変遷、民衆は飢え、病み、混沌とした今日こそ法華経（正法）への帰依の必然性を説かなければならない。これまでひたむきに研鑽の日々を重ねてきた求道者・日蓮大聖人は、お釈迦様のご本意・法華経の弘通者として新たな旅立ちを心に誓い、十年間に渡る京畿への遊学を終え、故郷房州へと歩みを進められたのでした。

『衆流あつまりて大海となる。微塵つもりて須弥山となれり。日蓮が法華経を信じ始めしは日本国には一滞一微塵のごとし。法華経を二人・三人・十人百千万億人唱え伝うるほどならば、妙覚の須弥山ともなり、大涅槃の大海ともなるべし。仏になる道は此よりほかに又もとむる事なかれ。』

『撰時抄』

花と葬儀

木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会



草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) 30-4040
南佐賀草苑本店 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) 25-1255

技術本位

佐賀の老舗

信用本位

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

何故 世紀末

来年は西暦二千年です、又西暦二千年は二十一世紀の始まりということ、一言申し上げます。

西暦二千年は特別な年？として、様々な祝う行事、まつり、イベントなどが各地で計画、予定されているようです。初日の出、観覧車、特別ツアー、電光掲示板、ホテルの予約・・・。観光業界も千年に一度の追い風と乗り遅れないよう懸命のようです。更にはコンピュータの二千年問題等と騒ぎはとどまるところを知らないようです。

又、もうすぐ二十世紀も終わるといふので、世の中世紀末と何かと騒がしいようですが、果たして世紀末、西暦とは一体どういうことでありましょうか。

世紀という時代区分は西暦より成り立っています。その為紀元はキリスト誕生の年を無理に元年として計算しています。つまり世紀も西暦もキリスト教関係、そして西洋の暦でしかなかったのです。

俗に上等舶来という言葉が耳にしますが昔より日本人は海外のもの新しい物はないが優れていると勘違いして取り入れてきたのでしょうか。特に明治時代にはキリスト教の影響を受けた西洋の文化が大量に入ってきて、そしてそれは太平洋戦争敗戦で決定的

となったようです。

例えば商売人を始め多くの人はケーキの日(クリスマス)、チョコレートの日(バレンタインデー)等横文字を使う行事には一生懸命のようですが、東洋の花祭り、花入り十五夜はともかくとして、四月八日の花祭(お釈迦様の誕生日)十二月八日の成道会(お釈迦様が悟りを得られた日)にいたっては一部の人を除いて完全に無視されてしまったような気がします。

ほかに日本人の象徴である天皇陛下でさえ、外国の要人と会う等正式の場ではネクタイを締め洋服を着ておられるようです。我々も洋服を着ることがほとんどになってしまいました。着物というものがありません。暦は日本にも皇紀という年号があります。今年二千六百五十九年です。仏教国では仏暦(釈尊誕生を元年)を使い、又、イスラム教圏ではマホメット聖遷(ヘジラ)を紀元元年としているようです。

まあその程度だった時代の流れとして目くじらをたてることではないのかも知れません。

というのは、冬だというのに昔のように寒くなく、温暖化は確実に進行しているようです。原因の一つにクーラー等文明機の使い過ぎがあげられます。昔ながらの藁葺き、障子、泥壁、ふすま等自然と共生、調和し

てきたものから、特に西洋の影響を受けてか、自然を遮断して自己の快適の為自然を無視、あるいは敵対、犠牲にした生活の為ではないでしょうか。

そしてその西洋の文化圏に多大なる影響を及ぼしたのが、砂漠の宗教であり、人間中心に自然を敵対征服しようとした侵略的な思想を持つキリスト教だったことは否定できないでしょう。

良いものを取り入れ活かすことは大切なことだと思えます。西洋、西暦のお蔭で今の生活を享受でき、又世界のことは理解しやすくなりました。しかし西暦を唯一絶対のように考え、昔からの良い生活習慣等無視し、余りに西洋かぶれして世紀末と浮足だつのはどうでしょうか。

和合、自然との調和を説き、そして唯我一人のみ能く救護をなすと云われたお釈迦様の教えである仏教こそ真の意味で世界を救う教えです。来年は教祖でもありインドの地に生を受けられたお釈迦様仏暦三千二百年です。

(佐賀新聞 平成十一年五月十四日投稿掲載された文に加筆したものです。)

辻 雅英



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を
梅谷佛具店
TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

0120-39-0456
TEL 092-806-7499

通産大臣認可 7産第2930号
株式会社 冠婚葬祭こころの会
三日月町大字久米2084-1 ☎72-3177・FAX72-3633

こころの会指定店
有限会社 黄城
総合葬祭
小城市270 ☎73-3938・FAX72-3633